

千葉県感染症発生動向調査情報

2011年 第18週 (5/2-5/8) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		18週	17週	16週	15週
上段:患者数 下段:定点あたり患者数	小児科	17	14	16	17
	眼科	4	4	4	4
	インフルエンザ*	27	24	25	26
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉県					千葉県 4/25-5/1 17週
		注意報	5/2-5/8	4/25-5/1	4/18-4/24	4/11-4/17	
			18週	17週	16週	15週	
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	8
	咽頭結膜熱		2	4	3	5	27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		31	44	48	42	390
	感染性胃腸炎		60	65	87	104	785
	水痘		20	9	18	17	192
	手足口病	○	7	1	2	1	8
	伝染性紅斑	○	13	10	16	18	86
	突発性発しん		13	17	20	13	75
	百日咳		0	0	0	0	4
	ヘルパンギーナ		0	0	0	1	5
	流行性耳下腺炎		6	9	10	11	68
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		23	74	115	93	763
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	2	1	0	16
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	2	0	1	1
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	1	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	放出インターフェロγ 試験	結核	女性	20歳代	放出インターフェロγ 試験
結核	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出	結核	女性	60歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	結核	女性	70歳代	病原体遺伝子の検出等
結核	女性	10歳代	放出インターフェロγ 試験	結核	女性	80歳代	病原体等の検出
結核	女性	20歳代	放出インターフェロγ 試験等	結核	女性	80歳代	病原体の検出
結核	女性	20歳代	放出インターフェロγ 試験	後天性免疫不全症候群	女性	30歳代	血清抗体の検出

*結核11件(117)、後天性免疫不全症候群1件(3)の報告があった。

()内は2011年累積件数

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第18週のコメント

＜手足口病＞前週より増加し、0.41となった。

＜伝染性紅斑＞前週より増加し0.76となった。過去5年間の同時期と比べると多め。

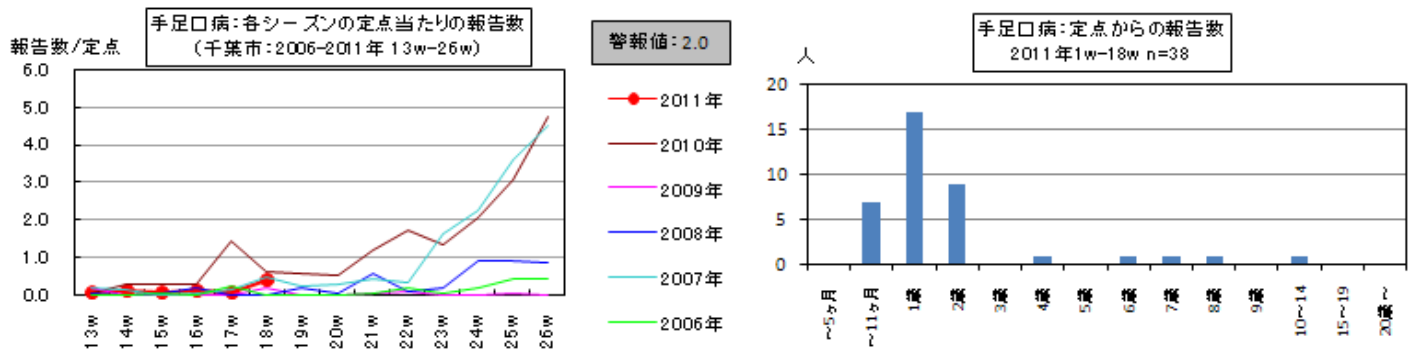
トピック

＜手足口病＞

2011年は全国的に過去4年と比べて平年並みで推移しており、第13週以降は低い発生となっています。第17週現在、西日本を中心に発生が比較的多く見られます。千葉市は、第18週は前週より増加し0.41となりました。

手足口病は、口腔粘膜および四肢末端に現われる水疱性の発しんを主症状とし、幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。主な原因ウイルスはコクサッキーA16(CA 16)、あるいはエンテロウイルス71(EV 71)ですが、流行の中心となるウイルスはその年によって異なり、2010年はEV71が最も多く検出されています。感染経路は経口・飛沫・接触などで、潜伏期は3～4日が多く、主な症状が消失した後も3～4週間は糞便中にウイルスが排泄されます。まれに髄膜炎や脳炎などの合併があり、経過中の頭痛と嘔吐には注意が必要です。

ワクチンなどの積極的な予防方法は現在のところありません。経口・飛沫・接触感染を防ぐため、排泄物に対する注意や手洗いなど、感染症に共通の予防を励行しましょう。



＜伝染性紅斑＞

伝染性紅斑は、小児を中心にしてみられるヒトパルボウイルスB19による流行性発疹性疾患で、多くは飛沫または接触により感染します。成人は不顕性感染が多いとされています。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。

5～9歳での発生が最も多く、次いで0～4歳が多いとされていますが、成人でも病院内における集団感染事例の報告もあります。年始から7月上旬頃にかけて症例数が増加し、9月頃に最も少なくなる季節性を示しますが、流行が小さい年では、はっきりした季節性が認められないこともあります。

潜伏期間は10～20日で、頬に境界鮮明な紅い発疹が現れ、続いて手・足に発疹が現れます。胸・腹・背部にもこの発疹が出現することがあります。これらの発疹は1週間前後で消失しますが、長引いたり、一度消えた発疹が短期間のうちに再び出現することもあります。頬に発疹が出現する7～10日くらい前に、微熱や風邪のような症状が見られることが多く、この時期にウイルスの排泄量が多くなり感染しやすくなります。発疹が現れたときにはウイルスの排泄はほとんどなく、感染力はほぼ消失しています。

2011年は全国的に過去4年間と比べて発生が多い状況が続いており、第17週現在では宮崎県、石川県、北海道の順で発生が多く見られています。千葉市では、昨年秋以降から例年に比べ高目で推移しており、第18週は前週より増加し0.76となり、過去5年間の同時期としては多めとなっています。

